

September 14, 2020

**【前日の為替概況】ユーロドル、3日続伸 ECB高官のユーロ高けん制は一部にとどまる**

11日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは3日続伸。終値は1.1846ドルと前営業日NY終値(1.1815ドル)と比べて0.0031ドル程度のユーロ高水準だった。ビルロワドガロー仏中銀総裁はこの日、「欧州中央銀行(ECB)は為替レートをターゲットにしていない。しかし為替レートは明らかにインフレと金融政策にとって重要」と述べたほか、ヴァシリャウスカスECB理事は「最近のユーロの上昇は歴史的に例外ではない」などと発言。一方、レーンECB専務理事兼チーフ・エコノミストは「最近のユーロ高がインフレ見通しを弱めている」などと述べたと伝わった。市場では「レーン氏以外にユーロ高を強く懸念する声はなかった」との受け止めから、欧州時間に一時1.1874ドルまでユーロ買いが進む場面があった。

ただ、NY市場に入るとじり安の展開に。節目の1.1900ドルや前日の高値1.1917ドルをバックに戻りながら売りの動きが出たほか、週末を控えたポジション調整目的の売りが出て一時1.1826ドル付近まで下押しした。8月米消費者物価指数(CPI)が予想を上回ったことも相場の重し。

ドル円は小反発。終値は106.16円と前営業日NY終値(106.13円)と比べて3銭程度のドル高水準だった。予想を上回る8月米CPIを受けて円売り・ドル買いが先行したものの、米10年債利回りが低下すると徐々に上値が重くなった。3時過ぎに一時106.06円と日通し安値を付けた。ただ、このところユーロやポンド絡みの取引が中心となっており、ドル円は大きな方向感が出なかった。市場では「来週は米連邦公開市場委員会(FOMC)や日銀金融政策決定会合など重要イベントを控えているため、方向感が出にくい」との声も聞かれた。今日の高値は日本時間夕刻に付けた106.26円で1日の値幅は20銭程度と小さかった。ユーロ円は3日続伸。終値は125.76円と前営業日NY終値(125.39円)と比べて37銭程度のユーロ高水準となった。欧州時間に一時126.13円と日通し高値を付けたものの、前日の高値126.46円を前に上昇は一服。NY午後には125.49円付近まで下押しした。ユーロドルにつれた動きとなった。

**【本日の東京為替見通し】ドル円は蚊帳の外か、今週はポンドやオセアニア通貨に注目**

本日の東京時間のドル円は引き続き狭いレンジでの取引になりそうだ。先週末11日はわずか20銭のレンジだったが、1週間を通して7日と8日につけた高値106.38円を頭に、下値も9日の安値105.80円と58銭という極めて狭いレンジで取引された。今週もこのレンジを超えたとしても、よほど大きなニュースなどでもない限りは、大きな振幅を期待するのは難しいだろう。

今週は16-17日に日銀政策決定会合が開かれるが、市場を驚かさず変更を期待するのは難しく、無風状態となりそうだ。15-16日に予定されている米連邦公開市場委員会(FOMC)も、ジャクソンホール会議で、FOMCの動きを先取りしていることでサプライズを期待するのも難しい。また、本日予定されている自民党総裁選では、菅官房長官が第99代内閣総理大臣に選出される可能性は揺るがなく、菅政権は安倍政権の継承で「つなぎ内閣」という声が聞こえてくることで、政策が大幅に変わることもないだろう。先週の値動きを見ても、米経済指標でドルが買われても、売られてもドル円は蚊帳の外だった。しかし、欧州通貨やオセアニア通貨は神経質に動き、今週も円以外の通貨が為替市場をリードすることになりそうだ。

ユーロは先週の欧州中央銀行(ECB)の会議後で、ECBの中でユーロ高への強い懸念を持っているのがレーンECB専務理事だけと市場は捉えていることで買い場探しになりそうだ。ただし、経済指標では本日の7月ユーロ圏鉱工業生産、明日15日の独やユーロ圏のZEW景況感指数以外は、市場を動意づかず経済指標は少ない。

一方、英国はイベントが多い。15日に8月雇用統計、16日に8月CPIとPPIが発表され、17-18日には英中銀金融政策委員会が開かれることで、ポンドの値動きが激しくなりそうだ。また、国内市場法をめぐり国内外で混迷を含めていることも、ポンドを動かすことになりそうだ。先週はメイ英首相(保守党)が同法案について懸念を表明したが、週末もメージャー元首相(保守党)、ブレア元首相(労働党)が同法案に反対意見を述べている。同法案が可決されても、否決されても英国と欧州連合(EU)の交渉は袋小路に入り込むことで、ポンドの売り圧力は変わらないだろう。ただし、週末のテレグラフ紙にスナク英財務相が大型減税を示唆したと報じていることや、FT紙によるとオックスフォード大学と製薬大手アストロゼネカがワクチン開発を再開したと報じたことは、ポンドの支えとなるかもしれない。

また、今週はオセアニア通貨も大きな値動きが期待できる。豪州から17日に8月の雇用統計、NZも同日に4-6月期国内総生産(GDP)の発表を控えていることで、両指標前後は神経質な値動きになりそうだ。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 13:30 ◇ 7月鉱工業生産確報
- 13:30 ◇ 7月設備稼働率
- 13:30 ◇ 7月第三次産業活動指数（予想：前月比0.5%）

## &lt;海外&gt;

- 15:30 ◎ 8月インド卸売物価指数（WPI、予想：前年比▲0.31%）
- 16:00 ◇ 7月トルコ鉱工業生産（予想：前月比8.3%）
- 18:00 ◎ 7月ユーロ圏鉱工業生産（予想：前月比4.1%／前年比▲8.1%）

## 15日

- 10:30 ◎ 9月豪準備銀行（RBA）理事会議事要旨
- 10:30 ◎ 4-6月期豪住宅価格指数
- 11:00 ◎ 8月中国鉱工業生産
- 11:00 ◎ 8月中国小売売上高

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

11 日 11:25 茂木外相

「トラス英貿易相と本日午後に会談し、貿易交渉で大筋合意を目指す」

11 日 16:28

「日英貿易協定、21 年 1 月 1 日の発効を目指す」

11 日 11:40 菅官房長官

「消費増税はあくまでも将来の話であり、今後 10 年は引き上げる必要なしという安倍首相の考えと同じ」

「経済再生がなければ財政健全化はない」

11 日 15:11 レーン欧州中央銀行(ECB)専務理事

「最近のユーロ高がインフレ見通しを弱めている」

11 日 15:59 ビルロワドガロー仏中銀総裁

「ECB は為替レートをターゲットにしていない」

「しかし為替レートは明らかにインフレと金融政策にとって重要」

「中期インフレ見通しへの影響について為替レートの動向を監視する」

11 日 18:22 ヴァシリャウスカス ECB 理事

「最近のユーロの上昇は歴史的に例外ではない」

11 日 19:39 ラガルド ECB 総裁

「新型コロナウイルス感染第 2 波が不確実性を増す」

「独りよがりであってはならない、財政の努力も必要」

11 日 19:52 中国外務省

「米国への報復措置として米大使館、中国本土と香港の領事館のスタッフを規制する」

「中国の行動は米国の誤った行動への必要な対抗措置」

11 日 21:17 英首相報道官

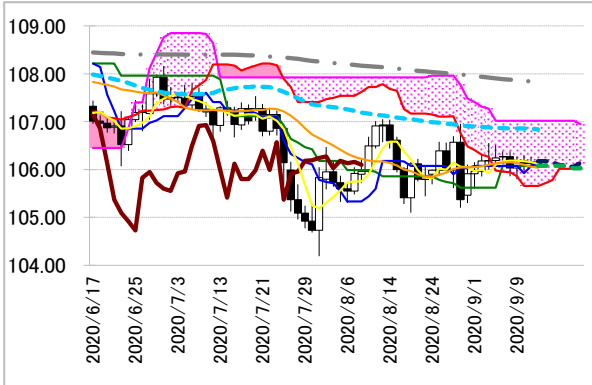
「我々は北アイルランドが英国の関税領域だということを明らかにした」

「欧州連合(EU)とは引き続き誠実に交渉を続ける。合意に達することを信じている」

「産業界は合意してもしなくても、EU の単一市場と関税同盟から離脱することに準備するべきだ」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

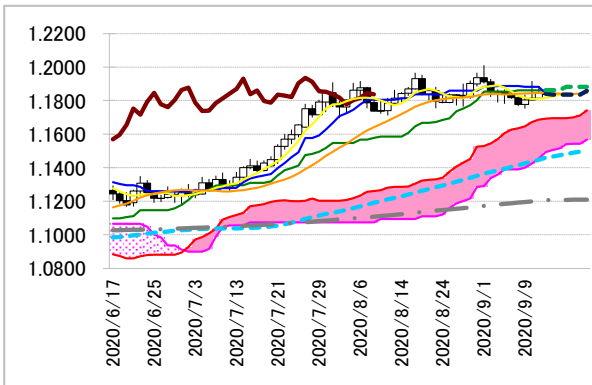


### ＜ドル円＝転換線・基準線に沿った緩やかな下押し予想＞

極小陽線引け。一目均衡表・雲の中で強い方向感なく推移している。傾向としては、じり安が見込まれる一目・転換線や基準線に沿った緩やかな下押しへ向かいそう。

切り上がる一目・雲の下限にぶつかるところが反発のポイントとなりそう。だが、そこで上昇に転じることができなければ、下値を探る展開へ移行することになるか。

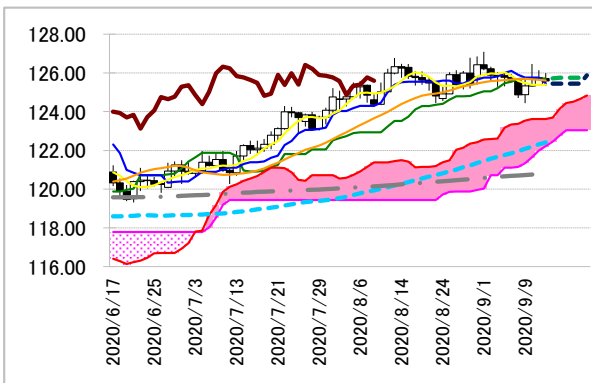
レジスタンス 1	106.62(9/10 下落幅の倍返し)
前日終値	106.16
サポート 1	105.66(日足一目均衡表・雲の下限)
サポート 2	105.20(8/28 安値)



### ＜ユーロドル＝基準線を追って持ち直す展開想定＞

上影小陽線引け。10日に上ひげを形成した際の高値1.1917ドルが目先の重しとなりそう。低下中の一目均衡表・転換線1.1841ドルを追うような下押しが予想される。だが、同線前後までの小幅な下落にとどまれば、次第に上昇傾向の一目・基準線1.1861ドルを追うように、水準を持ち直してくるとみる。

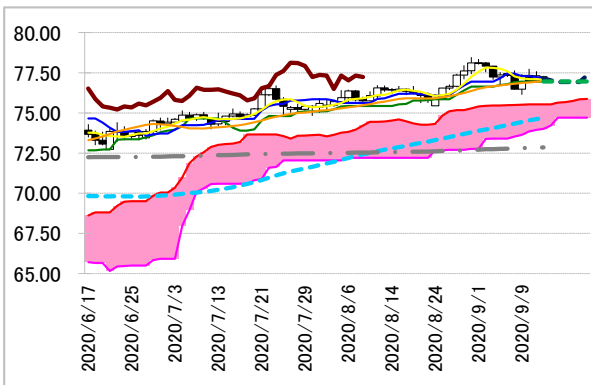
レジスタンス 1	1.1917(9/10 高値)
前日終値	1.1846
サポート 1	1.1783(ピボット・サポート 2)



### ＜ユーロ円＝転換線の持ち直しとともに地合い回復へ＞

上影小陽線引け。一目均衡表・転換線が基準線を下回って、売りサインが点灯した。目先の重さを示しているが、転換線はじり高が予想される基準線付近へやがて戻ってくる見込み。売り示唆の弱まりを意味しており、次第に地合いが回復する展開が期待できる。

レジスタンス 1	126.46(9/10 高値)
前日終値	125.76
サポート 1	125.01(ピボット・サポート 2)



### ＜豪ドル円＝転換線・基準線付近から次の方向うかがう＞

上影小陽線引け。一目均衡表・転換線と基準線が収れんする77円付近から、次に動き出す方向をうかがう局面にある。9日安値76.12円と、年初来の高値圏78円台が目先のレンジ上下となりそう。レンジを放れた方向へ値動きは加速しそうだが、下方向は75円台の一目均衡表・雲の上限が緩衝材になるだろう。

レジスタンス 1	77.74(9/10 高値)
前日終値	77.32
サポート 1	76.74(9/9-10 上昇幅の61.8%押し)

